

SHIRO PAPER EARTH



Issue
March
2023

1

B2 ARCHITECTS
建築家、アライイリエ・
アーキテクツに聞く
みんなの工場ってどんなところ？

**A2 SAKE KASU &
KOMENUKA**
全国各地の生産者を訪ねる旅
酒かすと米ぬかの生産地へ

A4 CRAFTSMANSHIP
人気の酒かすシリーズに
米ぬかを加え
酒かす米ぬかシリーズが誕生





何も決まっていないうえに、時間がない。受け取ったことのない変化球をどうやって打ち返そうかと頭をフル回転させました。

有井…みんなの工場の場合、確定していたのは「オープンの時期」と「みんなで工場をつくるんだ」というくらい（笑）。しかも、次のプレゼンテーションまでに与えられた時間はわずか1週間でした。普通は、少なくとも2〜3週間くらいあるものなんです。とにかく、いただいた資料を持ち帰り、心を落ち着かせて入江とふたりで話すことにしました。

なぜ、噛み合わなかったのか。それはやはり普通じゃないからでした。△△のほどイメージや方向性が確立されているブランドのプロジェクトの場合、建築家に声をかけるときには、いろいろながが決まっています。「こういう場所に、こういう空間をつくる。庭はこんなふうになっていて、こんなお店が入って、こんなふうにお客さんに楽しんでもらいたい。だから、こういう建物を建ててください」という具合に。

入江…今井さんと初めてお会いした日、「絶対、私たちは選ばれないね」って有井と話しながら帰りました。だって本当に噛み合わないんです。「何か質問がありますか？」と聞かれたのですが、私たちには質問しありませんでした（笑）。質問がありすぎて、何から聞いたらいいかわからないというか……。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模を考えると、実績と信頼を積み重ねたベテランの建築家に依頼するのが「普通」だからです。

今井…何人かの建築家にこちらからご連絡し、「みんなのすながわプロジェクト」の概要をご説明したのです。実はその中で、一番話が噛み合わなかったのが、アリエイリエでした（笑）。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

あれ……？「普通」と違う……

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

アリエイリエのお二人は、声をかけられたことに驚いたと言います。△△△というブランドや工事の規模も大きい。いろいろな人に声をかけ、△△△が大切にしている「自然に合わせるものづくり」を理解してくれそうな建築家のみなさんをご紹介いただきました。その中の一組がアリエイリエのお二人でした。

建築家は「空気」をつくる

お二人の提案には、こう書かれていました。

- 1 つくるプロセスをつくる
- 2 工場を開くと学校になる
- 3 ここで働くことが誇りになる
- 4 土地を耕す
- 5 土地のリスクと向き合う

入江…私と有井にとって師匠である建築家の小嶋「浩さんは『建築家は、壁や屋根をつくっているんじゃない。そこに生まれる『空気』をつくっているんだ』とよくおっしゃっていました。その空気が人に伝わり、そこでの体験をつくる。建築家が自由で軽やかな空気をつくれば、そこで過ごす人もきっとワクワク楽しくなるし、逆に重苦しい空気をつくってしまったら、人が寄り付かなくなってしまうんです。私たちが建築家として選ばれたとしても、今井さんの心に響けばそれでいいと思います。

工場で働く人、砂川に住む人、△△△のファンみなさんが、それぞれ工場とどのように関わるのか、みんなの工場に集まる人たちにどんな時間を過ごしてほしいのか、そういったことを大切にアリエイリエのお二人はプレゼンテーションを練り上げました。

有井…もちろん、建物としてのプロポーションも大切です。建物としてのかっこ良さや美しさを諦めるわけではありません。でも、本当に大切なのは、建物ではなく、建物をつかう人。二人で「ここはこだわろうよ」「ここは建築が前に出すぎじゃない？」なんて相談しながら、



コンセプトやこの空間を流れる空気を資料としてまとめました。

噛み合わなかった初対面から1週間後、資料を受け取り、プレゼンテーションを受けた今井はとても感動したと言います。

今井…とにかく真剣で、本質的でした。それにとっても正直でもありました。だって、最初のプレゼンで「この土地には△△のリスクがあり、△△の対策が必要だからコストがあがります」って言うんですよ（笑）。受注したかったら、最初に面倒なことば言わないでしょ？でも彼らは違いました。素敵な建築家さんはたくさんいるけれど、あんなふうに提案されたのは初めてでした。彼らの本気が伝わってきたんです。二人のプランを聞き終えたとき「一緒に未来をつくっていくの」と確信しました。彼らは建築家としては若手ですし、確かに実績は少ない。でも、私たちが世界の名だたるブランドと比較するとはまだ若手。結局のところ、他のどの案よりも△△△らしい提案でしたし、他の誰よりも△△△らしい建築家だと思いました。だからアリエイリエと一緒に決めたんです。

「つくる人」と「つかう人」の距離を縮めた先にある新しい「つくりかた」

いよいよSHIROの新しい拠点「みんなの工場」が、北海道砂川市にオープンします。

工場やショップ、カフェ、キッズスペースなどを併設し、人と環境に配慮した循環型の施設です。

設計を担当したのは、アリエイリエ・アーキテクトの有井淳生さんと入江可子さん。

「健やかな空気をつくる」というテーマを掲げ、一戸建て住宅や公共建築物、都市空間だけでなく、工場設計に至るまでさまざまな建築に携わっています。

ブランドプロデューサー／ファウンダーの今井浩恵を交えて、設計において大切にしてきた思想を語り合いました。

Photographs: KEI FURUSE / SHINSUKE TAKAMA (BS) Text: SHINTARO KUZUHARA



自分たちもつくってみる

こうしてみんなのすがわプロジェクトを担当する建築家は決まりましたが、工場のオープン日は決まっています。残された期間は少ない。次々と仕様を決めていかななくてはなりません。最終的にアリエイリエのお二人は、今回の建築のコンセプトを3つにまとめました。

- 1 工場を開く
- 2 ここで働くことが誇りになる
- 3 素地としての建築

ものづくりへのリスペクトと、空気をつくる建築。ふたりが大切にしてきたことが上手にまとまった基本方針です。

入江..設計において特に気をつけたのは、工場とそれ以外をいかにつなげるかということでした。私たちは今「つくる人」と「つかう人」が遠く離れた生活を送っています。これってなんだか虚しいと思いませんか？

誰かが心を込めてつくったものも、売場で手に取った時には、そのこだわりや想いはなかなか伝わってきません。だから難に扱ったり、簡単に使い捨ててしまったりする。次々と新しいものを購入し、持っていたものは大切にされない。



1. 工場を開く

工場の一部ではなく、製造ライン全体を見学できるようにする。裏のない製造工程へのSHIROの発想と誇りを、建築の在り方で示す。それは、工場+付帯施設という構図ではなく、工場自体を開くということ。ものづくりのプロセスを開放することで、その場を一企業の製造所から、地域の学びの場へ変容させます。

表紙の写真がまさに、その吸音材です。

入江..「つくること」を大切にしているSHIROのみなさんと仕事をするうちに、自分たちのやり方にも疑問が湧いてきました。例えば、建築資材って、多くものはカタログから選ぶんです。そうすると、どうしてもどこかで見たことがある普通の資材しか使えない。それでは味気ないじゃないですか。だから、ものづくりの人と何か一緒に特製の資材を開発しようと思ったんです。人づてにいろいろな人を紹介してもらい実現できたのは、天井に貼る吸音材。SHIROの店舗で使われていた旧ユニフォームをリサイクルして、オリジナルの資材をつくることができました。普段は自分たちが関わることをできない繊維産業の方々と対話し、開発・製造の工程を併走できたことで、自分たちの可能性も広がることができました。



2. ここで働くことが誇りになる

自然と切り離された工場で働くのではなく、生産を担う人たちの健康や福祉、砂川市の将来を視野に入れて計画する。働く人が誇りを感じ、地域から愛される場所を目指します。単純に自然エネルギーを利用するといったことではなく、そこに関わる人たちが自律的に営みを変え、あう、本当の意味での持続可能な社会を実現できると考えます。

みんなの「つくりたい」を刺激する場所に

研究を重ね、ものをつくる。それを届けた先で、誰がつかって喜ぶ。その喜びが人と人をつなげていく。SHIROはそうやって少しずつ成長してきました。

入江..本当は建築家って、そういう役割なんです。建築家になるための教育の中で、図面を書く・構造計算をするといった建物をつくるための実務的な技術を教わる時間は決して多くありません。たくさん時間を使うのは「どんな空間があればもっと街が良くなるのか」や「どんな空間をつくれれば、そこに集まる人と人の関係が良くなるのか」といったことを考えること。建築の役割と果たせる価値について真剣に考えている人たちがなんです。でも、社会に出るともっと変わってきちゃう。普通は、あらゆることが決まった状態で建築家に声がかかりますから。みんなのすがわプロジェクトは、私たちがコンセプトを考える「余白」があった。とても良いチャンスをいただきました。

普通は、あらゆる仕事が縦割りになっていて「コンセプトを考える人はこの人、規模や面積配分を考える人はこの人、広報を考える人はこの人」と、役割が細かく分業されています。そのほうが効率は上がるけれど、それで良いんだって言う問いから、このプロジェクトは始まっています。だからこそ「みんなのすがわプロジェクト」という名前がつけられているんです。



アリエイリエ・アーキテツ

主な作品に岩手県盛岡市のロースターカフェ「Nagasaki COFFEE」、障害のあるアーティストの作品を発信するギャラリー「HERALBONY GALLERY」、食庫とオフィスの融合した「清光社 埼玉支店」など。清光社 埼玉支店で、JID AWARD 2020大賞、第47回東京建築賞 一般一類部門最優秀賞、第24回木材活用コンクール 林野庁長官賞など受賞多数。

有井 淳生 (アリアツツ)

1984年神奈川県生まれ。東京大学大学院在学中にオランダ、ロッテルタムのOMAにてインターン。大学院修了後、シーラカンスアンドアソシエイツを経て2015年アリエイリエアーキテツ設立。

入江 可子 (イリエカコ)

1984年東京都生まれ。東京藝術大学大学院在学中にイタリア、トリノのPolitecnico di Torinoに留学。大学院修了後、シーラカンスアンドアソシエイツを経て2017年よりアリエイリエアーキテツ、パートナー。



みんなのすがわプロジェクト
https://shiro-sunagawa.jp/
shiro_sunagawa



3. 素地としての建築

隣接するショップやカフェ、畑との間を隔てる強固な箱をつくるのではなく、品質管理に必要な環境を確保した上で、可能な限り建築としての存在感を消し、自然光や公園への景観を重要視した、健康的な環境を目指します。また、中身を積極的に見せていくこの場所に豪華な建築は必要ありません。

みんなの工場

MINNANO - SUNAGAWA FACTORY
BY SHIRO

「みんなの工場」 2023年4月28日(金)オープン

創業の地・北海道砂川市にオープンする新工場の名前は「みんなの工場」といいます。

子どもも、大人も、働く人も、くつろぐ人も、動物や植物にとっても、みんなの居場所になることを願って名付けました。

工場を開く

最初に決めたこと。それは工場を開くことでした。

お店やカフェのすぐ隣、ガラスを挟んだ向こう側に

私たちが働く工場があります。

みなさんが手にとっている製品がつくられる様子をご覧ください。

みんなで、みんなを考える

自分たちが使いたいものをつくり、

たくさんの人に届けたいと願い、

日本だけでなく世界にまで

私たちの製品をお届けできるようになりました。

少数精鋭で走り抜けた日々、

コロナ禍で立ち止まってふと気が付きました。

視野は狭まり、思考がすっかり凝り固まっていたのです。

そこで「みんなの工場」は、

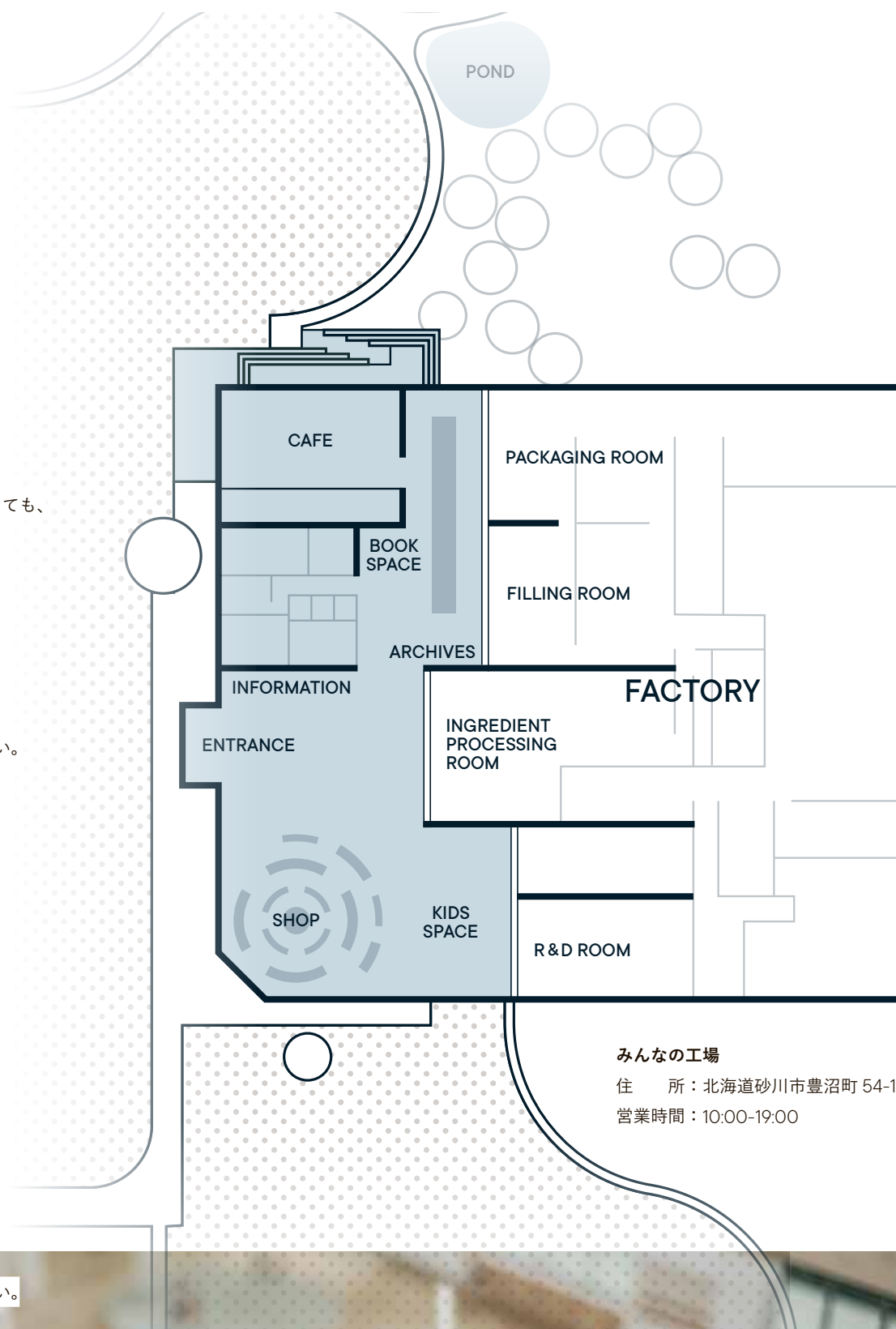
みんなと話しながらつくることに挑戦しました。

そしてこれからみんなで育てていきたいと考えています。

ブレンダーラボであなただけのフレグランスをつくり、
ピンネシリ岳を眺めながらカフェでコーヒーをお楽しみください。
こどもたちの遊び場や、小さな図書館もあります。

つくることからすべてが始まる——。

ぜひ砂川に遊びに来ててください。



みんなの工場

住 所：北海道砂川市豊沼町 54-1

営業時間：10:00-19:00

